

先進事例 紹介

消防の広域化 過疎化と広域化

広域化に至る経緯

砂川地区広域消防組合は、1市2町(砂川市、奈井江町、浦臼町)で昭和47年に組合化され、条例を一元化し3市町の消防にかかる事務だけではなく管轄区域内の消防業務全般を総合的に行っていった。また、上砂川町消防本部は単独消防本部として閉山前の三井砂川炭鉱の私設消防団とつながりを持った中、消防サービスを行ってきた経緯があり、閉山に伴う人口減少により規模を縮小しながらも、上砂川町の消防行政を行ってきたところであるが、平成24年4月1日より上砂川町が加わり、1市3町による新たな枠組みで砂川地区広域消防組合としてスタートしたところである。

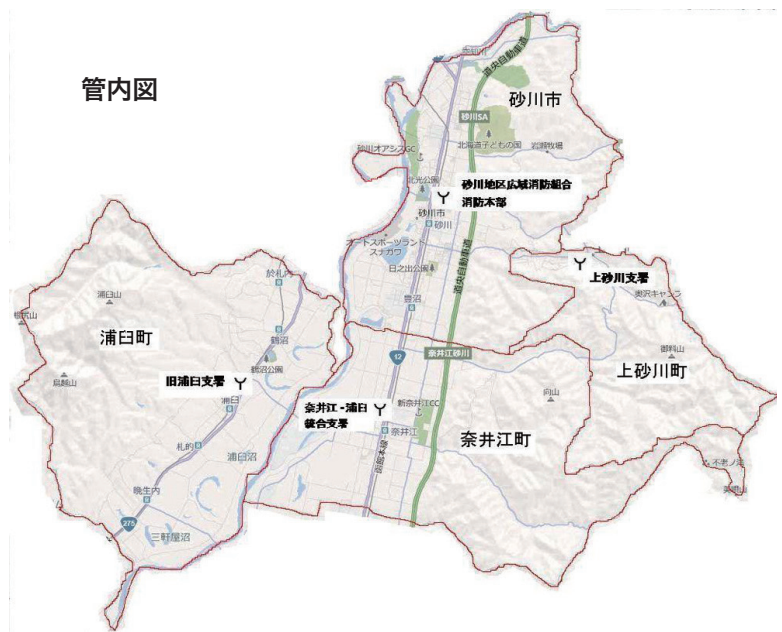


庁舎

管内の状況

管内行政面積は307.73km²で管内人口は31,447人と小規模な組合消防であるが、高齢化と過疎化が進行するこの地区において、救急件数は人口減と比例せず増加傾

北海道 砂川地区広域消防組合消防本部



向にあり、救急活動中心となる消防行政の見直しは必須であり、中空知の地域医療の拠点である砂川市立病院との連携を強化し、救急業務の高度化、高齢化に伴う福祉的対応を考慮し、住民のニーズに応えるべく行政サービスとして、更なる充実を図ることが重要である。

広域化のメリット

救急業務の高度化、災害の多様・大規模化、予防行政の拡大及び通信業務の複雑化等、消防を取り巻く環境の変化に対応するにはハード面の整備や人員の育成・確保は不可欠であるものの、この地区における共通課題の一つとして財政難というハードルがあり、限られた財源や人員で、どのように消防力の充実・強化を図っていくべきかということが大きな課題となっていた。

こうした中、広域化により、通信や本部業務等の軽減に伴う余剰人員を必要性の高い業務に配置換えすることが可能となり、出動体制を含めた組織強化が実現した。

また、合理的な予算執行により財政的なメリットが期

待できるなど、各自治体の地域性や特性を生かした中で消防力の強化・消防サービスの向上が可能となった。

現在、消防救急デジタル無線と通信指令システムの予算化が実現し、運用に向けて準備中であり、平成25年4月よりの運用開始となる。

構成市町及び消防団との連携の確保

構成市町との間において、各市町長が作成した防災・国民保護計画は、住民の安心・安全の確保という基本的重要な業務であり、広域化に伴い改めて緊密な連携体制を再構築し、国・道等からの災害派遣要請等に対してもスムーズな対応をするために、消防本部が統率する体制を確立するなど、各種災害・防災に関して、構成市町の理解と協力を求め、防災・国民保護担当部局と消防との間において必要な事項を整備し、連携強化を図った。

また、消防団は地域に密着した消防防災活動を行うという特性を有することから広域化後においても従来どおり各団長を筆頭に組織を確立されているが、砂川地区広域消防組合と構成市町の各消防団との連携体制を構築するため、各署所に消防団係を配置し、消防団に係る事務を整備し、各団との連絡調整に努め、各団の報酬・旅費等に格差が生じないよう消防団条例を一本化に整備し、



出初式のはしご乗り演技（団員）

連体の意識向上を図った。また、メール召集システムの導入及び出動区分等の見直しにより災害対応の強化を図り、組合団長会議・組合連合演習等の開催により連携強化を図った。

おわりに

現在当組合は、団塊世代の退職に伴う代謝が著しく、若い職員が増えているところであるが、現場の経験不足は否めないところであり、この広域化を機に更なる知識・技術の向上を図り、地域住民の安心安全を守るべく組合組織の強化を図りたい。

